

# うどの優良系統選抜

## 1. 試験のねらい

本県のうど栽培で用いられている系統は個々の農家が選抜してきたものであり、その特性や品質にばらつきがみられる。そこで県内外から栽培株を収集、調査、分類し、本県の気象条件に適した系統を選抜する。

## 2. 試験方法

供試株は、平成12年までに収集した34系統（県内収集株：15株、県外他収集株：19株）を用いた。

1系統10株を供試し、定植は平成13年4月12日に行い、栽植密度は畝幅130cm、株間70cmとした。施肥量は3要素とも成分で1.0kg/aとし、根株養成期の地上部生育、根株の生育、軟化時の生育・品質等について調査した。

軟化は11月29日及び12月18日に根株を掘り取り、中庸な3～4株を直ちに20℃定温の軟化床に伏せ込んだ。軟化茎の調査は、平成14年1月24日および2月13日に行った。

## 3. 試験結果および考察

県内外産地から収集したうど34系統について、株養成期の生育及び軟化物の特性を調査し、これらから下記の有用な形質を保持する4系統を選抜した。

No.107：掘取り時根株の大きさは中。芽数は少。休眠は浅い。軟化茎径はやや太く、アントシアン着色は少ない。香り、エグ味は少ない。

No.122：掘取り時根株の大きさはやや大。芽数は少。休眠はやや浅い。軟化茎径は太く、アントシアン着色は少ない。香り、エグ味は少ない。

No.133：掘取り時根株の大きさはやや大。芽数は多。休眠はやや浅い。軟化茎径はやや太く、柔らかい。アントシアン着色は少なく、香り、エグ味は中程度。

No.135：掘取り時根株の大きさは大。芽数はやや多。休眠はやや浅い。軟化茎径はやや太く、柔らかい。アントシアン着色は少なく、香り、エグ味は少ない。

注) 下線は、特に有用な形質

## 4. 成果の要約

県内外産地から収集したうど34系統の中から、軟化茎のアントシアン発現が少なく、休眠が浅く早期出荷に適し、収量性が高い等の特性において有用な形質を保持する4系統を選抜した。

(担当者 黒磯分場 矢田部健一)

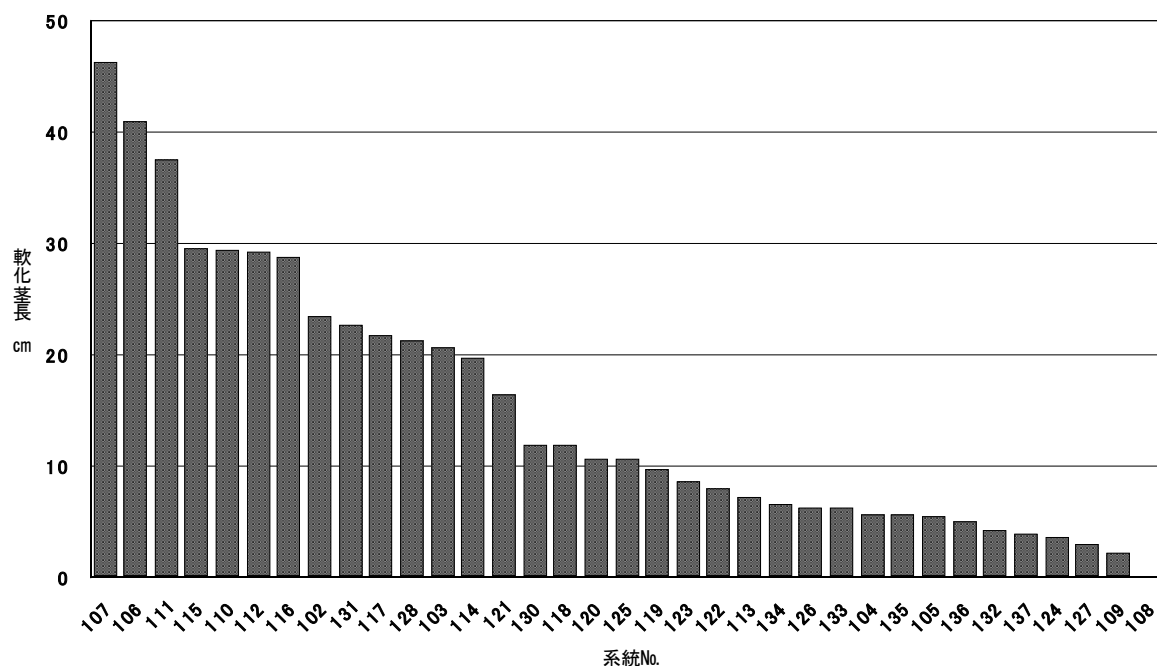


図-1 最大軟化茎長 (11月29日伏せ込み)

表-1 根株の生育及び軟化茎の生育・品質

No.	根株の生育		軟化茎の生育						軟化茎の品質			
	株重 (g)	着生芽数	茎長 (cm)	草丈 (cm)	茎径 (mm)	一茎重 (g)	側枝の開帳性	アントシアン着色程度	硬度 (kg)		食味	
									表皮	内部	香り	エグ味
107	1488	3.8	68	93	27	615	1	0	1.12	0.72	1	1
122	1977	3.0	56	81	33	806	1	0	1.14	0.73	1	1
133	2062	10.0	37	47	25	227	2	0	1.13	0.50	2	2
135	2395	7.3	56	70	25	386	3	0	1.19	0.49	1	1

注) 軟化茎の生育は、平成14年2月13日 (伏せ込み：平成13年12月18日) に、株内の最大伸長茎について調査した。

着生芽数は径10mm以上の個数とした。

硬度は、直径2mmの円柱を使用し、進入時硬度をプッシュプルメーター (今田製作所) で測定した。

開帳性は、1 (立性) ~5 (開帳性)、アントシアン着色程度は、0 (無) ~3 (多)、食味は、官能評価により、香り：1 (弱) ~3 (強)、エグ味：1 (弱) ~3 (強)とした。